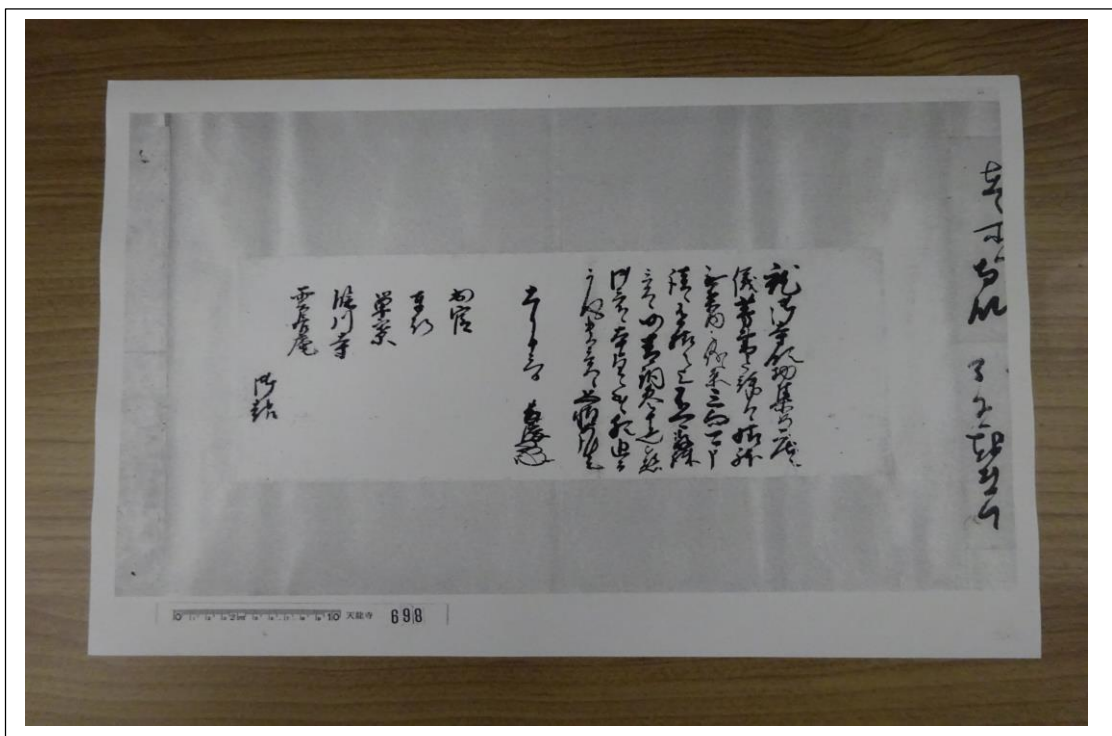


1. 天龍寺文書 第698号 篠原長房書状 (文書形式)



698 篠原長房書状

就御寺領物集女庄野之儀、
芳書令拝見候、様躰無案内之儀
候条、三向可申談候、
有様之上不可存疎意候、

仍青銅參十疋被懸御意候、
本望之至候、猶追而可得貴意
候、

恐惶謹言
十一月十三日 長房 (花
押)

出官
奉行
单寮
臨川寺
雲居庵
御報

(解説)

永禄九年(1566)十一月十三日
の文書と推定されている。篠原長房
は、阿波国の三好氏の家臣。室町幕府
十四代將軍の足利義榮を奉じて、畿内
に上陸し、その
存在感を示した。

この文書は、政情が安定しなかつた
京都周辺の状況を表したものである。

天龍寺領の山城国物集女庄(現在の
京都府長岡京市周辺)の知行を引き続
き天龍寺が望み、篠原が、その意を三
好長逸に伝えたとある。

戦乱が広がるにつれて、天龍寺の寺
領が、荒らされていくことになる。